



Title	日本在来馬の利活用としての流鏝馬競技 : 使わなければ家畜ではない!
Author(s)	大館, 大學
Description	要旨の出典: 『生き物文化誌学会 第十回学術大会 (福岡大会) 要旨集』 p.11
Relation	生き物文化誌学会 第10回学術大会, 平成24年7月14日, 福岡県
Issue Date	2012-07
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51089
Type	conference presentation
File Information	odachi_ppt1.pdf, スライド



日本在来馬の利活用としての流鏝馬競技 —使わなければ家畜ではない！



男衾三郎絵詞

大館大學(おおだち・だいがく)

(北海道大学・流鏝馬競技連盟)

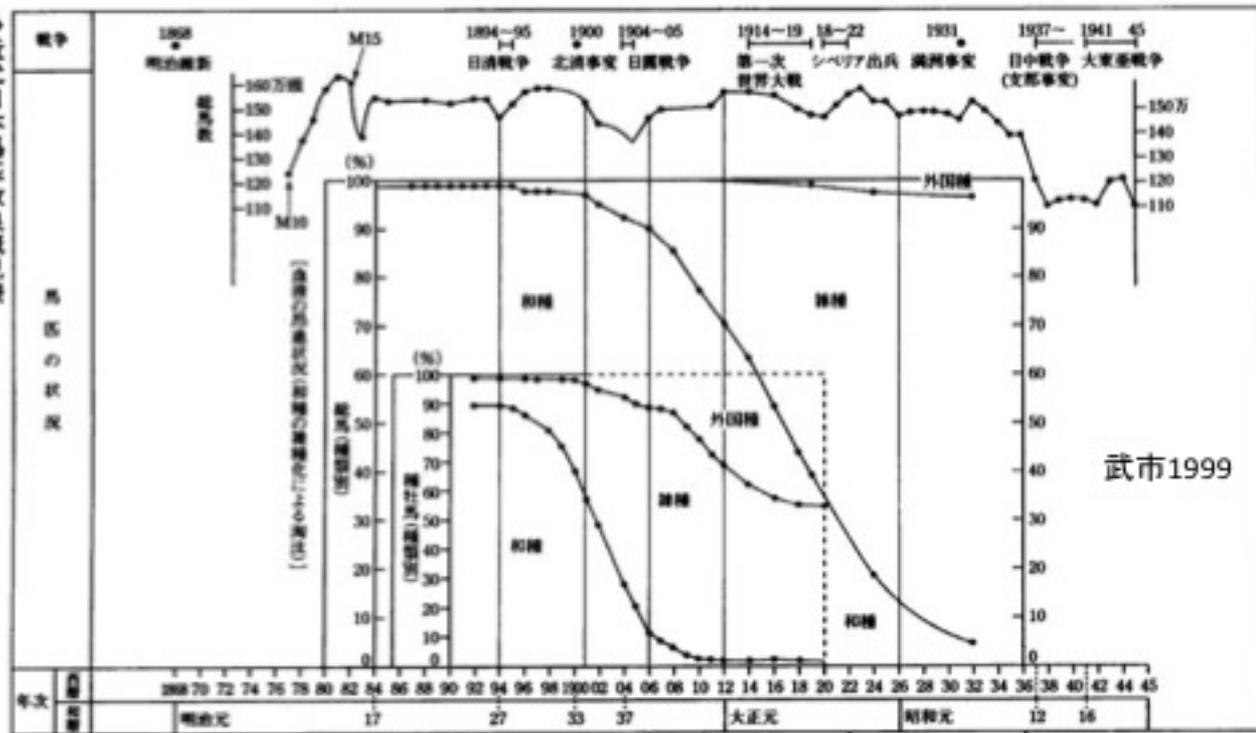


プライバ
シーにより
非公開

大館大學 源義勝、和種馬にて登城(出勤)。合成写真ではありません(笑)

どのぐらいの数の馬が日本にいるのか？

◆近代日本馬匹改良概見表



明治中期～昭和40年代
110-150万頭前後。ただし、在来馬は絶滅政策
が取られていたのでこの
間も激減していた。



馬全体の飼育も激減し、平
成20年では僅か8万頭程
度のみ飼育。在来馬にい
たっては2千頭未満。

(3) 総飼養頭数の推移

(単位: 頭)

年次	軽種馬	農用馬	乗用馬	小格馬	在来馬	肥育馬	合計
平成5年	72,779	28,378	9,797 (9,797)	—	3,361	6,778	121,093
6	72,484	28,397	10,108 (10,108)	—	3,486	7,955	122,410
7	70,840	27,801	10,766 (10,766)	—	3,157	10,070	122,234
8	68,489	25,321	11,234 (11,234)	—	3,201	9,910	118,155
9	66,688	24,853	11,369 (11,369)	—	2,898	9,506	115,314
10	64,120	22,412	11,646 (11,646)	—	2,892	10,260	111,330
11	61,954	20,574	12,189 (12,189)	—	2,877	9,436	106,830
12	60,795	19,537	11,739 (11,739)	—	2,510	9,396	103,977
13	59,883	18,236	13,274 (13,274)	2,013	2,455	8,700	104,561
14	58,413	16,963	14,225 (14,225)	1,627	2,400	12,390	106,018
15	56,096	15,057	13,755 (13,755)	1,610	2,301	13,136	101,955
16	53,027	13,578	13,705 (13,705)	1,602	2,294	12,399	96,603
17	50,411	11,951	14,512 (14,512)	1,486	2,087	12,439	92,886
18	47,596	10,578	15,468 (15,468)	1,412	2,067	9,847	86,968
19	46,138	9,516	14,799 (14,799)	1,298	1,851	10,748	84,349
20	45,277	8,888	15,829 (15,829)	1,178	1,860	10,098	83,129

(注) 乗用馬の()内は、乗馬施設で供用されている馬で内数

農林水産省生産
局畜産部2010

日本の風土で育成されてきた
生きた文化財といえる、日本
在来馬は絶滅の危機にある。

日本在来馬(和種馬)とは？

日本に馬が導入されてから明治以降の洋種馬の影響がほとんどない在来の家畜。8品種

北海道和種(道産馬)



木曾馬



御崎馬



対州馬



野間馬



<http://www.chie-project.jp/O11/no01.html>

宮古馬



与那国馬



トカラ馬



在来馬のうち体格の大きい北海道和種と木曾馬が流鏝馬競技の中心。とりわけ飼育頭数が多い北海道和種がメイン。北海道和種馬を例として他の馬種との体格の違い。



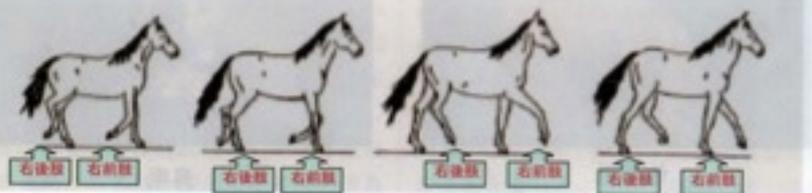
側対歩(そくたいほ) <> 斜対歩

在来馬、特に道産馬は駆け足の時、左右の前足と後ろ足を同時方向にだす側対歩(ジミチともいう)をする。ラクダの歩様。上下動が少ないので、甲冑武者や荷駄の移動に適している。勿論、襲歩になるとジミチはしない。

斜対歩：右前肢と左後肢、左前肢と右後肢が同時に前後する連歩



側対歩：同じ側の前後肢が同時に前後する連歩(ベース、じみち、あいび、ジョロックなど)



近藤2012



日本の伝統的な人間の歩様、いわゆる「ナンバ歩き」と共通。

日本在来馬の飼養頭数の推移

(単位:頭)

馬種 年度	北海道 和種馬 (北海道)	木曾馬 (長野県)	野間馬 (愛媛県)	対州馬 (長崎県)	御崎馬 (宮崎県)	トカラ馬 (鹿児島県)	宮古馬 (沖縄県)	与那国馬 (沖縄県)	計
S40	-	510	-	1,182	-	-	-	-	1,692
45	-	90	-	654	-	-	-	170	914
50	1,337	33	5	287	60	45	-	58	1,825
55	1,307	39	8	171	82	62	-	55	1,724
60	1,666	64	17	75	91	75	8	60	2,056
61	1,545	66	22	61	99	88	9	62	1,952
62	1,731	66	25	59	102	89	10	65	2,147
63	2,083	67	28	59	96	91	11	71	2,506
H11	2,245	69	30	65	97	92	14	89	2,701
2	2,561	68	34	75	93	104	15	115	3,065
3	2,925	68	35	89	84	118	19	112	3,450
4	2,665	98	36	92	86	114	21	91	3,203
5	2,834	86	38	92	82	110	25	94	3,361
6	2,928	92	42	84	87	115	23	95	3,466
7	2,614	87	47	79	88	113	21	108	3,157
8	2,693	84	50	70	92	110	21	81	3,201
9	2,419	78	63	40	92	108	19	81	2,898
10	2,408	57	75	33	98	106	16	99	2,892
11	2,174	64	72	32	112	103	17	103	2,677
12	1,950	68	74	30	119	113	18	120	2,510
13	1,857	127	77	31	117	121	19	108	2,455
14	1,780	136	76	28	120	126	19	105	2,400
15	1,722	128	78	27	120	107	22	97	2,301
16	1,673	162	82	26	122	114	19	96	2,294
17	1,471	161	83	25	117	113	23	94	2,087
18	1,468	157	85	27	122	96	25	90	2,070
19	1,248	149	84	31	113	110	31	85	1,851
20	1,254	148	81	30	115	115	31	85	1,860
21	1,223	155	74	29	113	125	31	83	1,833
22	1,198	159	80	32	111	121	37	85	1,823
H22/H4	45.0%	162.2%	222.2%	34.8%	129.1%	106.1%	176.2%	93.4%	56.9%

資料:各保存団体報告値

公益社団法人 日本馬事協会

平成22年で在来種すべてで1800頭、そのうち道産馬が1200頭と全体の66%を占めている。

その次に木曾馬、御崎馬と続くが、圧倒的に道産馬の数が多い。

馬のような大形家畜は飼育コストがかかる。動物園等の飼育施設や篤志家の保存だけでは増加させるには無理がある。
絶滅を防ぐには、「活用」する場を設け、生産者やオーナーのモチベーションを高める必要がある。

従来の在来馬の活用として、いくつかの試みがされている。(近藤2012など参照)

乗馬(特に外乗でのホーストレッキング) < 急斜面を上り下りする事が得意

ホースセラピー < 障害者に対しては小型であるために介助者に負担がかからない。
在来馬特有の振動がリハビリに効果的との研究もある。

動物とのふれ合い < 小型であるので、大型獣が初めての人にも威圧感を与えない。

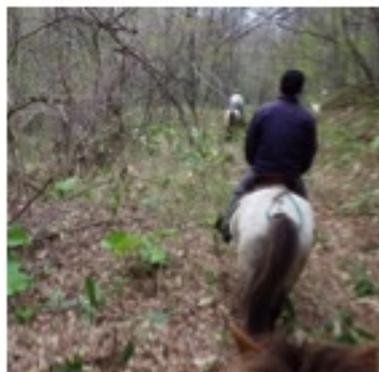
軽種や重種の試情馬(当て馬) < 小型なので制御が比較的楽。

食肉 < 一頭買いの桜肉専門店では、ほどよい大きさに余剰が少なく経済的。霜降肉。

災害救助騎馬隊(函館) < 駄載の方法であるダンツケの保存が行われている。
夏期であれば燃料不要。粗食に耐える。初期投入に最適。

桜肉

著作権により非公開



北広島市でのホーストレッキング



近藤2012



図11 試情馬(当て馬)として使用されている北海道産種馬



北大学祭獣医学祭での馬とのふれ合い

もっと華やかで、在来馬らしい活用法はないか？

古墳時代以降明治初期まで伝統行事には在来馬が用いられてきた。



古墳時代以降成立したの日本の馬上射は、奈良時代から平安時代に騎射(うまゆみ)として重要な朝廷儀礼とされ、武士の勃興とともに、平安時代後期あたりから鎌倉時代に流鏝馬(やぶさめ)、笠懸(かさがけ)、犬追物(いぬおうもの)などの馬上武芸が発展した。

現在は流鏝馬は各流派や各地の神社の奉納として存続している。

小笠原流系、武田流(細川流)系の二大流派のほかに各地方での神社奉納(盛岡流鏝馬、古殿等) 福岡周辺>香椎宮



現在、多くは洋種馬で行われている。

また神事や伝統流派という事情により、門人や保存会以外の人や女性、外国人などには敷居が高い。

本来、利用されていた在来馬を使うべきである(技術論)。

利用者の増加の為に敷居を低くし、誰でも利用できるに競技化(スポーツ化)する。

流鏝馬を在来馬を用いて競技化する試みが、1995年頃、菊地幸雄氏らにより始められた。

流鏝馬競技連盟とはなにか？

平成14(2002)年4月に、北海道芽室町にて、神事化されていた流鏝馬を和種馬の振興をかねて、日本の伝統武芸の「弓馬術」を和馬術競技として普及を図るために設立。それまで木曾馬や道産馬を用いて流鏝馬を競技化していた甲州和式馬術探究会の菊地幸雄氏(後の連盟副会長)の協力のもと、剣山どさんこ牧場の川原弘之氏(後の連盟監事)の呼びかけで全国より、関係諸氏を結集した。今年で設立10年目となり、当初は各団体での連絡調整機関であったが、現在では連盟を主体性のある団体に再編しており「支部」として5つの団体がある。このほか個人会員の傘下の団体が、流鏝馬競技、流鏝馬奉納をさかんに行っている。

平成24年2月現在の個人会員・役員、支部は以下の通り(敬称略)

個人情報でもありますので撮影等はお控え下さい。

会員名	役職	所属団体
近藤誠司	会長	道央流鏝馬会(道央支部)・北大FSC教授・北海道和種馬保存協会会長
菊地幸雄	理事・副会長	甲州和式馬術探究会・紅葉台木曾馬牧場
旗谷嘉辰	理事・副会長	全日本戸山流居合道連盟会長(東京・神奈川)
中野渡利彦	理事・副会長	十和田乗馬倶楽部(東北支部)
池田 茂	理事・副会長	函館どさんこファーム(函館支部)
今野 恒	理事・事務局長	道央流鏝馬会(道央支部)
清水唯弘	理事	歴史騎馬文化研究所(神奈川県)
菊池茂勝	理事	盛岡八幡宮南部流鏝馬(東北支部)
三上耕一	理事	青森乗馬倶楽部(東北支部)
川原弘之	理事	十勝ドサンコやぶさめ養馬会(十勝支部)・剣山どさんこ牧場
大館大學	理事	道央流鏝馬会・北大低温研助教(道央支部)
笠原克美	監事	上州赤城風空連・東京都弁護士
柏村文郎	監事	十勝ドサンコやぶさめ養馬会会長(十勝支部)・帯広畜産大教授
白井興一	顧問	北海道和種馬保存協会事務局長

支部名称	代表者	役員等	支部構成員
十勝支部	柏村文郎	副支部長 河合正人 事務局長 上野深人	27名(男性20名 女性7名)
道央流鏝馬会 (北海道中央 地区流鏝馬 会)	馬場 稔	事務局長 中澤栄次 監査 戸梶博之	25名(男性10名 女性15名)
函館支部	池田 茂	事務局 松田敦馬	7名(男性6名 女性1名)
東北支部	会長 中野渡 利彦	副会長 菊池茂勝 理事 三上耕一 事務局長 上村鮎子 監査・相談役 大森康次	12名(男性11名 女性1名)
ゆれるたてが みの会 (道北支部)	中村三保子		5名(男性0名 女性5名)

プライバシーにより一般会員は非公開

合計 76名(男性47名 女性29名)

連盟規約の前文と競技規程(現行版)

前文

流鏝馬は、およそ千年前に当時の戦さ(いくさ)の主体である騎射(うまゆみ)の技を磨くために作り上げられた競技が起源とされ、疾駆する馬上から連続して矢を射る技を基本としている。その後、流鏝馬は奉納神事が主となり、各地にそれぞれの形態で伝わり現在に至っている。また、およそ三百年前に尚武を標榜した徳川吉宗の時代には、武術としていくつかの流派が隆盛し、現在これらの流派も神事としての流鏝馬を行っている。

流鏝馬競技連盟は、「疾駆する馬上から連続して矢を射る」という騎射(うまゆみ)流鏝馬の原点に戻り、千年にわたる我が国の伝統を継承するとともに、「技を競い合う」という競技の面を、競技規定を明確にして発展させようとする団体である。また、正しく日本の伝統を継承していくために、我が国固有の和弓と和鞍・和鎧など諸道具を用いることを旨としている。

一方、これらの諸道具や技術は、我が国の在来馬(以下和種馬とするものも同意味)とともに発展してきたことを忘れるべきではない。日本の在来馬はユーラシア中央部から東アジアの騎馬民族の馬と体型が類似するが、同時に和種馬特有の運動機能を持つ。和鞍・和鎧、和弓などが持つ独特の形態も、こうした和種馬の体型や運動特性を最大に活かすために発達してきたものである。我が国が誇るべき伝統文化である流鏝馬を、諸道具とその使用方法とともに正しく継承、発展させ、競技としての技術を一層発展させるためには和種馬を使用することが必須である。

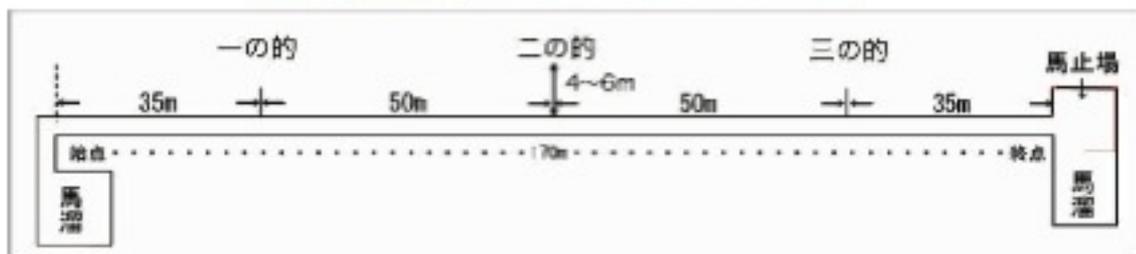
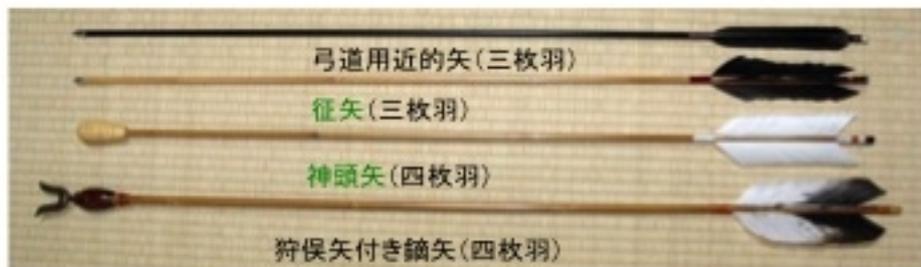
我が国の在来馬は8品種あるが、現在その数を減少させつつある。家畜種はそれぞれの地域の自然と文化が生み出したものであり、在来種は世界中でそこに住む人々の誇りの源の一つになっている。同時に、一旦、絶えた種や品種は二度と戻らない。

流鏝馬競技連盟では、「流鏝馬」という日本伝統の騎射の技の継承と発展を目的とし、それを達成するため不可欠な和種馬の存続とその一層の活用を図るものである。

競技規程

甲種競技(征矢による的の点数による競技)、乙種競技(神頭矢による的を割れたかどうかの競技)

馬は和種また和種系を使用。和弓、和鞍、和鐙、三懸(面懸、胸懸、尻懸)を使う。頭部の安全確保を行う(ヘルメット可)。和装(直垂、水干、烏帽子、弓道着等、烏帽子、鉢巻き等)と射籠手。



推奨競技馬場

征矢競技用的

連盟の直接関与する現在の主な競技大会

連盟主催 全国競技大会(毎年か数年に1回) 会員、支部持ち回り
今年は7/1に函館で開催された。

連盟・支部の主管・共催・後援大会

十勝大会(北海道十勝管内)、やぶさめ競技恵庭大会(北海道恵庭市)、どさんこフェスタIN函館(北海道函館市)、善知鳥の浜流鏝馬大会(青森県)、十和田駒フェスタ(青森県十和田市)

関連大会

桜流鏝馬(十和田市)、奥州やぶさめ合戦(岩手県)、全国スポーツ流鏝馬競技(岩手県遠野市)、浪岡御所流鏝馬大会、ホースバックアーチェリー国際大会

この他、連盟、各支部主催の奉納流鏝馬(北海道神宮、帯広神社、弘前城、高照神社)個人会員傘下が奉納流鏝馬を多数開催(富士浅間神社、赤城神社等)。

疾走能力

2011年東北の大会例

十和田乗馬クラブ・
上村鮎子氏調査

区分	馬名	所属	走数	平均タイム(秒)	秒速(m)	時速(km)	
北海道和種	秋悠	栗原市立馬場	10	11.90	9.24	33	
北海道和種	神奈	栗原市立馬場	10	13.02	8.45	32	
北海道和種	北国姫	栗原市立馬場	10	14.06	7.82	30	
北海道和種	清流丸	栗原市立馬場	8	8.71	12.63	46	和種平均
北海道和種	朝	栗原市立馬場	8	10.53	10.45	38	秒速(m)
北海道和種	金次郎	栗原市立馬場	8	11.91	9.24	33	9.64
和種系(F1)	赤夏	○N.O.Stable	17	10.03	11.16	40	
和種系(F1)	セ・ビアン	○N.O.Stable	8	11.17	10.74	39	
和種系(F1)	春雨	○N.O.Stable	3	11.29	9.75	35	
和種系(F1)	ガーネット	栗原市立馬場	25	10.22	11.36	41	
和種系(F1)	セキト(直)	栗原市立馬場	4	9.40	11.70	42	
和種系(F1)	ムーファン	栗原市立馬場	8	8.31	13.24	48	
和種系(F1)	ジャスミン	栗原市立馬場	16	9.63	11.97	43	
和種系(F1)	シトリン	栗原市立馬場	28	9.90	11.65	41	
和種系(F1)	カルサドニー	栗原市立馬場	41	11.10	10.37	37	
和種系(F1)	ナラ	栗原市立馬場	43	11.31	10.12	36	
和種系(F1)	かぼす	栗原市立馬場	8	11.80	9.32	34	
和種系(F1)	オーロラ	栗原市立馬場	10	11.95	10.04	36	
和種系(F1)	オルフェ	栗原市立馬場	29	12.10	9.43	34	
和種系(F1)	ピーチ	栗原市立馬場	30	12.13	9.26	33	
和種系(F1)	蘭	栗原市立馬場	4	12.54	8.77	32	
和種系(F1)	静御前	栗原市立馬場	8	12.75	8.63	31	
和種系(F1)	麒麟	栗原市立馬場	22	12.87	8.78	31	
和種系(F1)	輝	栗原市立馬場	10	14.16	8.19	30	
和種系(F1)	ダイヤモンド	栗原市立馬場	14	14.84	7.76	28	
和種系(F1)	輝	栗原市立馬場	10	14.85	7.77	28	
和種系(F1)	大和	栗原市立馬場	4	15.15	7.26	26	
和種系(F1)	苜	栗原市立馬場	4	15.26	7.21	26	
和種系(F1)	オーバー	栗原市立馬場	16	15.47	7.43	26	
和種系(F1)	ロゼット	栗原市立馬場	4	15.87	6.93	25	和種系
和種系(F1)	イザム	栗原市立馬場	4	17.43	6.31	23	平均
和種系(F1)	朝	栗原市立馬場	4	18.39	6.53	24	9.30
洋種系	かぐや	栗原市立馬場	8	9.10	13.19	45	
洋種系	ダイジー	栗原市立馬場	14	10.05	11.32	41	
洋種系	シーザリオ	栗原市立馬場	4	12.77	8.61	31	
洋種系	天空	栗原市立馬場	15	13.58	8.49	31	
洋種系	エミリー	栗原市立馬場	5	12.43	9.33	34	
洋種系	ジנגロー	栗原市立馬場	5	12.45	9.32	34	
洋種系	ドリーム	栗原市立馬場	10	13.75	8.44	30	
洋種系	快本(直)	栗原市立馬場	8	9.75	11.28	41	
洋種系	蘭太郎	栗原市立馬場	3	10.03	10.97	40	
洋種系	バーナム	栗原市立馬場	15	10.34	10.93	39	
洋種系	糖太郎	栗原市立馬場	14	11.67	9.68	35	
洋種系	ゴールド	栗原市立馬場	10	14.03	8.27	30	
洋種系	糖太郎	栗原市立馬場	3	14.44	7.62	28	
洋種系	ビジュ	栗原市立馬場	14	8.25	14.31	52	
洋種系	ジャルフェ	栗原市立馬場	19	9.99	11.11	40	
洋種系	ジグジャー	栗原市立馬場	8	10.20	10.78	41	
洋種系	ジョージ	栗原市立馬場	32	11.70	9.78	35	
洋種系	アポロン	栗原市立馬場	8	11.97	10.03	36	
洋種系	ハツ子	栗原市立馬場	21	13.17	8.00	32	
洋種系	サン	栗原市立馬場	26	13.86	8.36	30	
洋種系	クロス	栗原市立馬場	9	10.59	10.67	38	
洋種系	ルイジ	栗原市立馬場	9	13.12	8.76	32	洋種平均
洋種系	輝	栗原市立馬場	8	13.57	8.55	31	
洋種系	クロ	栗原市立馬場	15	13.84	8.51	31	9.89

第6回恵庭大会の例(すべて北海道和種)

道央流鏝馬会・今野恒氏提供データに基づく

	秒速(m)	時速(km)
櫻樂	8.64	31.1
秋悠	7.87	28.3
春雨	6.31	22.7
原宝	7.71	27.8
ちび太	7.58	27.3
竹姫	7.74	27.9
平均	7.64	27.5

左の計算と較べて同じ馬でもかなり遅いので会場の違いかもしれない

連盟関係では洋種系が僅かに和種系より早い程度で余り速度は変わらない。

参考: 走るのに特化したサラブレッドではラストスパートで
65km/h=18m/s ぐらい



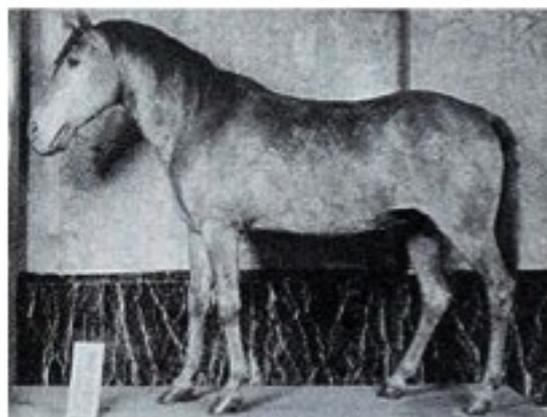
和種馬は使えないか？

南部馬「金華山号」

明治2-28年 宮城県玉造郡鬼首村生まれ

明治天皇の御料馬はほとんどが和種馬であった(武市 1999)。

この馬は物怖じせず頭がよい馬であったようで、明治天皇は御料馬のなかで特に金華山号を愛し、馬の晩年に以下のような御製を詠まれている。



明治神宮外苑聖徳記念絵画館に剥製と骨格がある
(現在撮影禁止)

ブログ バカボコ牧場日記より

道産馬は南部馬の系統を引いている
と言われている(未確認)

久しくも わが飼う駒の老いゆくが
惜しきは人に 変わらざりけり

和種馬は恰好悪いか？



源義勝(私) on 桐藤(北海道和種牝・鹿毛)

著作権により非公開

著作権により非公開

源義経(滝沢秀明) on 洋種馬系

大河ドラマ「義経」NHK出版より

短足、中型。日本の風土・地形、歴史にあった体形。甲冑着用時に体高が高いと落馬したときにすぐに乗れない。日本人には和服や装束が似合うのと同じ。

では、流鏝馬を競技化した結果、どのぐらいの在来馬が利用されるようになったか？



高橋氏撮影

平成24年7月現在、流鏝馬競技連盟加盟の主なグループで流鏝馬に使用可能な馬の頭数

	在来馬(北海道 和種/木曾馬)	和種系(和種と 洋種の雑種)	その他
北海道中央(含む石狩、 旭川)	7	0	0
北海道十勝	10	5	0
北海道函館	4	2	0
青森乗馬倶楽部	0	1	6
十和田乗馬倶楽部	0	23	7
その他青森県	0	4	0
岩手県(遠野、盛岡)	0	0	9
戸山流(東京、神奈川)	1	1	1
紅葉台木曾馬牧場 (山梨県)	7(トサンバ ¹ + キソ ⁴ + トサンバ ¹ xキソ ²)	4	0
	29	36	22

以上のように、「和種系」としては東北でかなり多くの在来馬とのF1が流蹄馬に活躍しているが、純血馬は北海道での道産馬の生産に任せられているという状況。木曾馬は、なかなか増加していない。

今後の課題

普及するには東北グループや山梨のように、「スポーツ」的な方法が最も手早い。しかし、スポーツ化により伝統的なものが忘れられることがある(例えば、柔道や剣道)。

一方、戸山流や私個人に見られるように、「武術」としての普及を考える派や、イベント町おこしとして行うグループなど、多様な価値観をどう調整するか？

コアな伝統的手法の墨守も必要。

＞奉納流蹄馬や伝統行事への参加。伝統流派との交流、和種馬の融通。

日本人の体格向上への対応(140cm以上の育成も可能)と、物怖じしない(悍馬でない)性格の馬の育成。

＞各和種馬保存協会での登録上の体高の基準の底上げと、扱い安く安全な性質の選抜。(どこが金をだすか？需要の増大)。

ご協力いただいた方々(敬称略)



近藤誠司(流鏝馬競技連盟会長、北大北方フィールド圏センター教授)

菊地幸雄(流鏝馬競技連盟副会長、紅葉台木曾馬牧場)



中野渡利彦(流鏝馬競技連盟副会長、十和田乗馬倶楽部会長)

旗谷嘉辰(流鏝馬競技連盟副会長、戸山流居合道連盟会長)



池田茂(流鏝馬競技連盟副会長、函館どさんこファーム代表)

上村鮎子(十和田乗馬倶楽部)



今野恒(流鏝馬競技連盟・事務局長)

飛塚優(函館どさんこファーム)



馬場稔(流鏝馬競技連盟会員・ホースフィールドワッツ)

川原弘之(流鏝馬競技連盟会員、十勝ドサンコやぶさめ振興会)

清水唯弘(流鏝馬競技連盟理事・歴史騎馬文化研究所)



白井興一(流鏝馬競技連盟顧問・北海道和種馬保存協会事務局長)

菊野日出彦、志和地弘信、河合久仁子、篠原明男、林佳夫、松原真佐子、
渡邊真弓、平田英雄、三橋國嶺

